



学生が自ら 地域で学ぶ

近江楽座

OHMI RAKUZA

START BOOK

SDGsの達成に向けた「地域教育」

SDGsについて

2015年の国連サミットで採択された世界共通の目標です。限られた地球上の資源を使い果たすことなく継続的に利用し、誰一人取り残すことなく、環境・社会・経済におけるさまざまな課題の関係性にも考慮して、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットが設定されています。



CHECK!

近江楽座公式サイト

各プロジェクトの最新情報や楽座人物図鑑など近江楽座についての情報が充実しています。



スマホの方はこちら！

<https://ohmirakuza.net>





OHMI RAKUZA

近江楽座

近江楽座は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」を

モットーに掲げる滋賀県立大学の学生教育プログラムです。

学生たちは地域の方々と一緒に活動することで、

学内では学べないことを体験します。

学生らしさを生かして地域に学び、育ち、貢献する。

そんな学びの場づくりを目指しています。



近江楽座プロジェクト [2023年度]

01	政所茶レン茶ー 政所に学生の風を!	詳しくは P.04
02	BAMBOO HOUSE PROJECT 生きる自然は地域を育む	
03	オオリヤロウ 里山の原風景をつむぐ、おおりびと	
04	廃棄物バスターズ ゴミ拾いを科学する!	
05	とよさと快蔵プロジェクト 空き家改修とまちづくりに参加しよう!	
06	未来看護塾 地域に住む方に健康と福祉を!	詳しくは P.05

07	あかりんちゅ エコでスローな夜を	
08	かみおかべ古民家活用計画 かみおかべが、与えてくれたもの。	
09	ヴォーリス研究会 ヴォーリスから学び、次世代へ!	詳しくは P.06
10	フラワーエネルギー「なの・わり」 資源循環型社会のモデル化	詳しくは P.07
11	滋賀県大生き物研究会 水辺の多様な生き物に触れる	
12	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト モノ、コトを創造する喜びを	

POINT 1 学生主体で活動

学生ならではの視点で地域の課題や魅力を見出し、プロジェクトを発足。厳正な審査で採択されたプロジェクトは、経費や教育指導等の支援のもと活動します。

POINT 2 幅広い分野の地域課題

これまで培ってきたノウハウや地域とのつながりを生かし、さまざまな分野の地域課題に取り組んでいます。

活動テーマ例

- 子ども
- 教育
- 福祉
- 健康
- 生活文化
- 伝統
- 調査
- 環境
- 防災
- 復興支援
- まちづくり
- ものづくり

POINT 3 多様な活動形態 目的や内容など、多様な地域活動に合わせたプロジェクトのタイプがあります。

▶ Aプロジェクト／学生主体型プロジェクト

SDGsの視点も踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。

新規プロジェクト・継続プロジェクト

20年間で延べ448のプロジェクトが活動しています。

Sプロジェクト

活動資金を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指すプロジェクト。



沖島 RYUBOKU HUTプロジェクト
琵琶湖の有人島・沖島に漂着した流木を利用して、地域の人の交流・遊び・学びの場として活用できる建築や空間を作っています。また、島民との交流を深め、竹林整備や清掃活動、イベントへの協力等地域社会に貢献しています。



内湖の再生と
地域の水辺コーディネート
滋賀県立大学内外に生息する生物調査・採集や、害のある外来生物の駆除、環境学習のお手伝い等を行っています。

▶ Bプロジェクト／地域協働型プロジェクト

自治体や企業、団体などから依頼のあった課題の中で、学生が中心となって取り組むことがふさわしいものについて、学生主体のグループを募集。指導教員と地域共生センターおよび依頼先とが協働でプロジェクトに取り組みます。

POINT 4 大学発地域貢献の先進的な取組として高く評価

あかりんちゅが「第13回毎日地球未来賞奨励賞」を受賞するなど、近江楽座の取組は学外からも高く評価されています。



あかりんちゅ
「第13回毎日地球未来賞」受賞



BAMBOO HOUSE PROJECT
「日本建築学会賞(業績)」、「学生ボランティア団体活動体験レポート優秀賞」を受賞

13	三津屋町地域活性化プロジェクト 三津屋を学生の力で盛り上げたい!	
14	スチューデント・キュレイターズ 文化財を守る学生学芸員	詳しくは P.08
15	竹林GAKU 竹の魅力を発見!発信していきます!!	
16	座・沖島 沖島でまなぶ・まじわる・ささえる	詳しくは P.09
17	おとくらプロジェクト 学生が運営する喫茶店	
18	ボランティア部Harmony モットーは「無理なく、楽しく!」	

19	リソース 日夏町でひかりかがやけ!	
20	はっしん歴史遺産@近江 地域と一緒に発進・発信!	
21	Cebu Parian Project 環境問題の改善・教育、地域活性化	
B	近江楽座学生委員会 学生が住み、生かして、つながりを広げる	



政所茶レン茶

活動開始年：2013年

メンバー：25名

活動場所：滋賀県東近江市政所町

関係団体：政所茶縁の会／政所茶生産振興会



政所に学生の風を！

地元の高齢になられた茶農家の方から畑をお借りして、古来から伝わる貴重な在来種を有機栽培・手摘みといった伝統的な栽培方法で生産販売しています。学生の視点から政所茶/政所町の魅力を発信し次世代に残していこうとする団体です。

地域の声

茶畑の管理者 白木 駒治 さん

政所町までのアクセスが大変にもかかわらず、学業と両立しながら政所茶の生産に携わっていただき、地域の住民も元気をいただいています。昔ながらの手間をかけた政所茶は希少価値のあるお茶です。頑張って生産してくれた政所茶を自信を持ってお客様に提供して下さい。新たな後輩にもしっかりとバトンを繋いでください。そして卒業してからも政所茶と係わって地元住民との交流も深めていってください。ありがとうございます。

学生の声

田代 帆華 さん
(環境科学部 生物資源管理学科 4年生)

茶レン茶の活動を通じて、人との会話や関わりが持つ力の強さと助け合いの大切さを改めて感じました。茶の栽培を基礎とした人のつながりがこの地域の1番の魅力であり強みであり、この団体が受け入れられ長年愛してもらっているのはそういった関わりを大事に積み重ねてきたからなんだと学びました。



未来看護塾

活動開始年：2004年

メンバー：251名

活動場所：彦根市内／学内

関係団体：彦根市立病院／友仁山崎病院／
認定特定非営利活動法人NPOぽぽハウス



地域に住む方に健康と福祉を！

地域の様々な人々が心も体も生き生きと健康な生活が送れるように支援することを目的に活動しています。この活動に関わってくださるすべての方々への感謝の気持ちを込めて、一つ一つ大切に活動していきたいと考えています。

地域の声

ビバシティ彦根 企画マネージャー 河村 慎二 さん

ハンドマッサージの他に体験型イベントブースも設置していただき、大勢のお客様に喜んでいただけました。イベントではリーダーの方を中心に、計画から運営まで頑張ってくださいました。みなさんの笑顔は素晴らしく、みんなを幸せな気分にしてくれます。そんな皆さんの精神を後輩の方たちが引き継ぐことで更なる「未来看護塾」の成長へとつながるのではと感じております。

学生の声

饗庭 みらい さん
(人間看護学部 人間看護学科 3年生)

活動を通して、大学内では関われない幼い子からお年寄りまで幅広い年代の方と関わり、相手に合わせた話し方や接し方を学ぶことができました。授業ではできない学びや経験ができることが未来看護塾の良さだと思いました。これらの活動を今後の看護に活かしていきたいです。





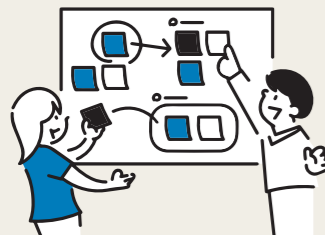
ヴォーリス研究会

活動開始年：2023年

メンバー：13名

活動場所：近江八幡市／学内

関係団体：学校法人ヴォーリス学院



ヴォーリスから学び、次世代へ！

近江八幡市を拠点に活躍したW.M.ヴォーリスの再評価と近江八幡のまちづくりの2つを主軸として活動しています。保全の問題に直面するヴォーリス建築群ですが、これらを活かして近江八幡のまちづくりに寄与したいと考えています。

地域の声

あぎんど道商店街振興組合 理事長 藤井 勝 さん

ヴォーリス建築スタンプラリーの企画・制作など、商店街内にヴォーリス建築が所在している私どもの商店街に多大なるご協力を賜り心から感謝いたします。学生の皆さんの専門知識や情熱、そして若々しい感性に触れることができましたし、新たな気づきや活気ももたらしてくださりました。今後も益々活躍されますことを心よりご期待申し上げます。

学生の声

寺下 響 さん
(環境科学部 環境建築デザイン学科 4回生)

日々、「ヴォーリスを最大限に伝えられる展示は何だろう…」と難しい課題に取り組み、様々な関係者の支援によって、その課題が解決できたように思います。そういう意味で、ヴォーリス展は近江八幡の方々と共に作り上げた展覧会と言っても過言ではないと思います。私にとっては、先輩方が築き上げたコミュニティや信頼すること、されることの重要性を再認識する展覧会になりました。



フラワーエネルギー「なの・わり」

活動開始年：2005年

メンバー：16名

活動場所：彦根市石寺町／学内

関係団体：菜の花プロジェクトネットワーク



資源循環型社会のモデル化

学内外の空いた土地で菜の花等を栽培し、採れた油をバイオディーゼル燃料に精製して使用することで、資源循環型社会の形成を目標に活動しています。また、小学校での出前授業や、高校生と連携して環境・エネルギー教育も行っています。

地域の声

豊郷町地域総合センター・隣保館 教育担当
松尾 甚吾 さん

地域の子どもたちが集う隣保館で、今年はバイオマスエネルギー(ひまわり油・菜種油)を使ってゴーカートが動く様子を見せていただいたり、実際に小学生に運転させていただいたりしました。およそ40名の子どもたちが参加し、実際に動くゴーカートや力強いエンジン音に興味津々でした。これを機に子どもたちが、環境に優しいことを自分たちもやろうと意識してくれると嬉しいです。

学生の声

井本 匡哉 さん
(工学研究科 機械システム工学専攻 1回生)

学内でひまわりを育てたのですが、雑草を刈り、畑を耕すところから、成長したひまわりを収穫するところまで全部自分たちの力で行い、農業の大変さを学ぶとともに、メンバーと協力して何かをやり遂げる楽しさを知りました。また湖風祭で模擬店を出したり、高大連携講座で高校生にバイオディーゼルについて教えたりと貴重な経験もできました。





スチューデント・キュレーターズ

活動開始年：2012年

メンバー：27名

活動場所：彦根市／近江八幡市／高島市

関係団体：白谷歴史民俗博物館



文化財を守る学生学芸員

地域の皆さんと“地域文化財”を活用するための博物館作りのお手伝いをしています。チーム名であるスチューデント・キュレーターズとは、“学生学芸員”という意味で、県内の様々な地域で古文書や民具などを調査し、地域文化財の保存に取り組んでいます。

地域の声

白谷歴史民俗博物館 川島 光男 さん

当博物館での活動が、学内の活動ではわかりにくい地域文化の現状を理解することにつながるかと思います。当館での活動により、学生のみなさんが社会に出れば見えにくいであろう地域の現状を少しでも肌で感じ取っていただけると幸いです。そして、それがこれからの地域文化を守っていくみなさんの活動のお役に立つと確信しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

学生の声

佐々木 颯透 さん
(環境科学部 環境政策・計画学科 2年生)

地域博物館プロジェクトの活動を通じて、授業では経験できないことがたくさん経験できました。古文書を読むことももちろん貴重な体験でしたが、地域の伝統文化であるヨシ刈りを体験したり、調査に協力していただいている西川さんの詳しいお話を聞いたりしたことが、特に他ではできない経験でした。近江楽座に参加して良かったです。



座・沖島

活動開始年：2016年

メンバー：18名

活動場所：近江八幡市沖島町／学内

関係団体：沖島町離島振興推進協議会



沖島でまなぶ・まじわる・ささえる

少子高齢化や過疎化が問題となっている琵琶湖に浮かぶ沖島。歴史ある自然豊かなこの島に学生が行き、地域行事や農業等の地域活動に参加することで、地域が抱える課題解決を目指しています。沖島の魅力の発進も行っています。

地域の声

沖島町離島振興推進協議会 小川 文子 さん

島の耕作放棄地でのパパイヤ栽培は、暑い中での草刈りなど大変だったと思いますが、無事収穫もでき次年度に繋がる活動となりました。また、小学校と地域住民の交流の場である運動会や離島振興推進協議会主催の「おきしまるしえ」にも参加していただきました。一緒に活動して盛り上げてくださることが沖島を元気づける何よりの助けになるのでこれからもよろしくお願いいたします。

学生の声

高山 梨香 さん
(人間文化学部 地域文化学科 3年生)

今年度は春祭りや運動会、マルシェといったイベントを通して沖島の人々と交流することができました。おきしま資料館の開館にも年表作りなどを通して携わらせていただき、良い経験となりました。来年度は他の近江楽座とも連携しつつ、楽しみながら新たな活動を行っていきたいと思います。



「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに「地域に根差し、地域に学び、地域に貢献する」「人が育つ大学」として独自の教育活動を展開してきた滋賀県立大学。開学以来、持続可能な暮らしにつながる知恵や技法を地域から学び、探究してきました。これらの取組は、今日のSDGsの理念につながる取組でもあります。「地域貢献大学のリーディングモデル」を目指し、持続可能な社会の実現に向けて、ともに学び、育ち、未来を切り拓く拠点でありたいと願っています。



▶ SDGs宣言

世界および地域の持続的な発展に貢献することを目指し、2018年6月に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行い、本学のSDGsにかかる取組姿勢を対外的に発信しました。



滋賀県立大学SDGs宣言

- S | 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに
- D | 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し
- G | グローカルな思考と実践をもって
- s | 世界と地域の発展に貢献します

▶ 地域教育プログラム

本学では、地域課題に応える「未来志向の変革力を身につけた人材」を育成するため、教員や地域人(※)の方による地域教育プログラムを実施しています。高い専門性を身につけ、俯瞰的に物事を見る能力はもちろんのこと、地域での実践を通して現実に起こっている諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養っています。

全学生が学ぶ地域基礎科目「地域共生論」

1年次の全学部生対象の必修科目で、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の約600人の学生が学部の枠を超えて一緒に学びます。各学部から提供されるテーマについて学生がグループワークを通じ、SDGsの視点を交えて考えるとともに、他者を理解し、共感と豊かな対話を可能とするコミュニケーション力を養成します。



夏期集中講義「SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション」

琵琶湖を守り、環境・社会・経済の調和を大切にする滋賀の暮らしをもとに県内複数大学の学生がともにSDGsを学ぶ単位互換科目です。

※地域人：地域活動の実践者で本学の地域教育プログラム履修者に対して指導・助言などを行っていただく方々

▶ キャンパスSDGsびわ湖大会

2023年11月18日から23日までの6日間を大会期間として、「キャンパスSDGsびわ湖大会2023」を開催しました。学内外でSDGsの達成に向けての活動を行っている団体による「SDGs Action報告会」、留学生による「海外でのSDGsへの取り組みレポート」、普段はあまり接点のない人たちと出会い、焚き火や映画を介して対話する「県大 TAKIBI TALK」や「SDGs映画上映会」、ボードゲームを通じてSDGsに触れる機会など学生実行委員会を中心に企画した様々な催しを行いました。



「SDGsボードゲーム」ワークショップの様子



「県大 TAKIBI TALK」たき火を囲んでの対話

▶ SDGs連続講座

2023年11月から2024年1月に(有)ガイアコミュニティの風かおるさんを講師として、「カードゲームから始めるSDGsと脱炭素社会のための連続講座」(全3回)を開催しました。参加者でカードゲームを楽しみながら、持続可能な循環型の暮らしについて考え、対話する機会となりました。



連続講座の様子 @長浜市役所



SDGs連続講座チラシ



カードゲームの様子 @滋賀県立大学

▶ SDGs出前講座

県内外の行政機関や教育機関、企業などから要望を受けて、教職員や学生を講師として派遣し、講演やワークショップを実施しました。



西東京市立田無第四中学校の修学旅行体験学習



彦根市立中央中学校の探究学習 @琵琶湖岸

SDGs達成に向けて

近江楽座専門委員会 委員長 佐藤 亜聖 (人間文化学部 地域文化学科 教授)

持続可能社会の達成に向けてSDGsが提唱されてずいぶん経ちます。地域密着型の大学として、学生そして地域とともにいかに持続可能社会を達成していくべきか、その試みの一つがこの近江楽座です。学生たちが自主的に地域へ溶け込み、そのニーズや課題を見出し、そして自らの学びをもとに、持続可能社会の実現に取り組んでいく。近江楽座はそんな学生たちの活動を支援するプログラムです。



近江楽座キャラクター
メイミ